

ありがとう汐見小学校

135年の歴史に幕



135年の歩み(学校沿革)

明治15年10月	民家を借りて馬込に学校開設(一時廃校)
明治20年	汐見簡易科小学校として再開校
明治25年4月	汐見尋常小学校に改称し馬込に校舎を置く
明治34年9月	汐見の現在地に新校舎落成
明治16年4月	汐見国民学校と改称
昭和22年4月	西長島村立汐見小学校と改称
昭和29年11月	校歌制定
昭和31年10月	汐見小学校章制定
昭和35年1月	町制施行・長島町立汐見小学校
昭和38年3月	校旗制定
昭和44年3月	鉄筋校舎落成式
昭和51年3月	体育館落成式
昭和56年3月	鉄筋校舎増築(2教室)
昭和57年8月	「汐見樽太鼓」MBCテレビ出演
昭和58年9月	創立百周年記念祝賀行事・記念碑建立
昭和59年3月	プール完成落成式
昭和60年3月	校舎南側増築完成(普通教室・下足室・水洗トイレ・給食置場)
平成7年2月	鉄筋校舎増築(2教室・オースプンスペース)
平成10年8月	校庭大規模改修工事
平成18年3月	第13回長島町小学生相撲大会団体戦初優勝
平成23年5月	新長島町誕生
平成30年3月	第1回出水地区 輪車競走大会汐見小Aチーム優勝 閉校記念式



↑昭和28年運動会の様子



↑昭和47年頃の汐見小学校



↑昭和50年、体育館を建設



↑昭和40年頃の運動会の様子



↑伝統の汐見樽太鼓の演奏



↑式典には多くの人が来場



↑閉校記念碑除幕式



↑一人ひとりに手渡された在籍証明書



↑村田教育長へ校旗を返納する肥後校長

明治15年、馬込集落の民家を借りて開設された、汐見小学校(肥後広行校長)が3月31日、135年の歴史に幕を閉じました。

3月4日、同校体育館で閉校記念式典が行われ、在校生や地域住民のほか、町内外に住む卒業生ら約300人が出席し、学びの閉校を惜しみました。

135年の長い歴史の中で1428人の卒業生を輩出した同校。肥後校長は「地域の人たちが愛し、地域の学校として支えられてきた汐見小学校は閉校となるが、これまで培ってきた、少々のことではへこたれない汐見魂を胸に未来へ向かって飛躍してほしい」とあいさつしました。

川添町長や来賓のあいさつの後、児童たちへ担任の教諭から一人ひとりに在籍証明書が手渡されました。その後、肥後校長から村田教育長へ校旗が返納され、地域住民らも一緒に閉校式を斉唱し、記念式典は閉式しました。

式典終了後は、閉校記念碑の除幕式を終え、体育館で「思い出を語る会」が開かれました。思い出を語る会は、昭和53年から続く伝統の「汐見樽太鼓」を在校生らが元氣いっぱい演奏し、開会しました。

同校閉校記念実行委員会委員長の濱田幹男さんは「子どもたちの歌声や樽太鼓の音がこれから聞こえないと思うと切なく寂しい思いでいっぱいだが、子どもたちの未来を考え苦渋の決断であった。これからは地域住民がさらに団結し、地域活性化を目指したい」とあいさつ。最後のPTA会長となった小屋正隆さんは「この閉校はさみしい事とは思いますが、悲しい事とは捉えたくない。私たち大人が子どもたちの教育環境を整えたいと考えて判断した結果です。昨年のながしま造形美術展では、PTAで『帆船汐見丸』を制作した。この作品には、どんな荒波にも負けず前へ向かって進んで欲しい、新たな一歩なのだという思いを込めた。在校生には夢と希望を持ち、前を見て城川内小学校へ進んでほしい」と惜別のあいさつを述べました。

もたちの未来を考え苦渋の決断であった。これからは地域住民がさらに団結し、地域活性化を目指したい」とあいさつ。最後のPTA会長となった小屋正隆さんは「この閉校はさみしい事とは思いますが、悲しい事とは捉えたくない。私たち大人が子どもたちの教育環境を整えたいと考えて判断した結果です。昨年のながしま造形美術展では、PTAで『帆船汐見丸』を制作した。この作品には、どんな荒波にも負けず前へ向かって進んで欲しい、新たな一歩なのだという思いを込めた。在校生には夢と希望を持ち、前を見て城川内小学校へ進んでほしい」と惜別のあいさつを述べました。

思い出のスライドショーでは、昭和9年頃から現在にいたるまでの、学校のさまざまな光景の写真が上映され、会場からは昔を懐かしむ声が響いていました。

この日のために、奄美市から駆け付けた海老原知子さんは「教諭としての初任地であり、出発点となった汐見小学校が閉校という話を聞き駆け付けた。当時の子どもたちや、お世話になった地域の人たちと語り、汐見小学校を心に刻んでいきたい」と話し、福岡から駆け付けた大堂園治さんは「昭和29年度に卒業した。当時は、みんな貧しく苦労したが、楽しい思い出もたくさんある。この学校が人生の礎を築いてくれた」と話しました。